

★ ネギ ベと病情報 ★

一部のほ場で発生が見られます
今後の発生に注意してください

昨年、山城地域を中心にべと病(写真)が多発し、甚大な被害が出ましたが、本年も同様のことが懸念されます。

5月2日に調査した3ほ場全てで、べと病の発生を認めました(表)。

また、大阪管区气象台平成29年4月27日発表の向こう1か月の近畿地方の気象予報では、「気温は平年比高く、降水量は平年並または少ない」と予想されていますが、今後、降雨が続き、気温の上昇が抑えられると、同病が一挙に発生することが考えられますので、注意が必要です。

なお、今回の調査では、さび病も散見されましたので、同様に注意してください。

表 ベと病の発生調査(5月2日)

調査ほ場	発病株率(%)
京都市①	4.0
〃 ②	6.0
八幡市①	16.0

調査株数:25株



写真 ネギべと病の多発ほ場(左)と病斑上に形成されたかび(矢印、分生子等)(右)

防除上の注意事項

- (1) 平均気温が15～20℃前後で、降雨の多いときに発生が多くなるので、曇雨天が続く場合は注意する。
- (2) ほ場の排水に努める。
- (3) 発生前や初期発生から定期的に本病に登録のある殺菌剤(防除所ニュース平成29年第1号参照)を散布し、蔓延防止に努める。
- (4) 被害葉には卵胞子が形成され、これが翌年の伝染源となるので、収穫後の被害葉は集めてほ場外に持ち出し、土中深くに埋めて処分する。